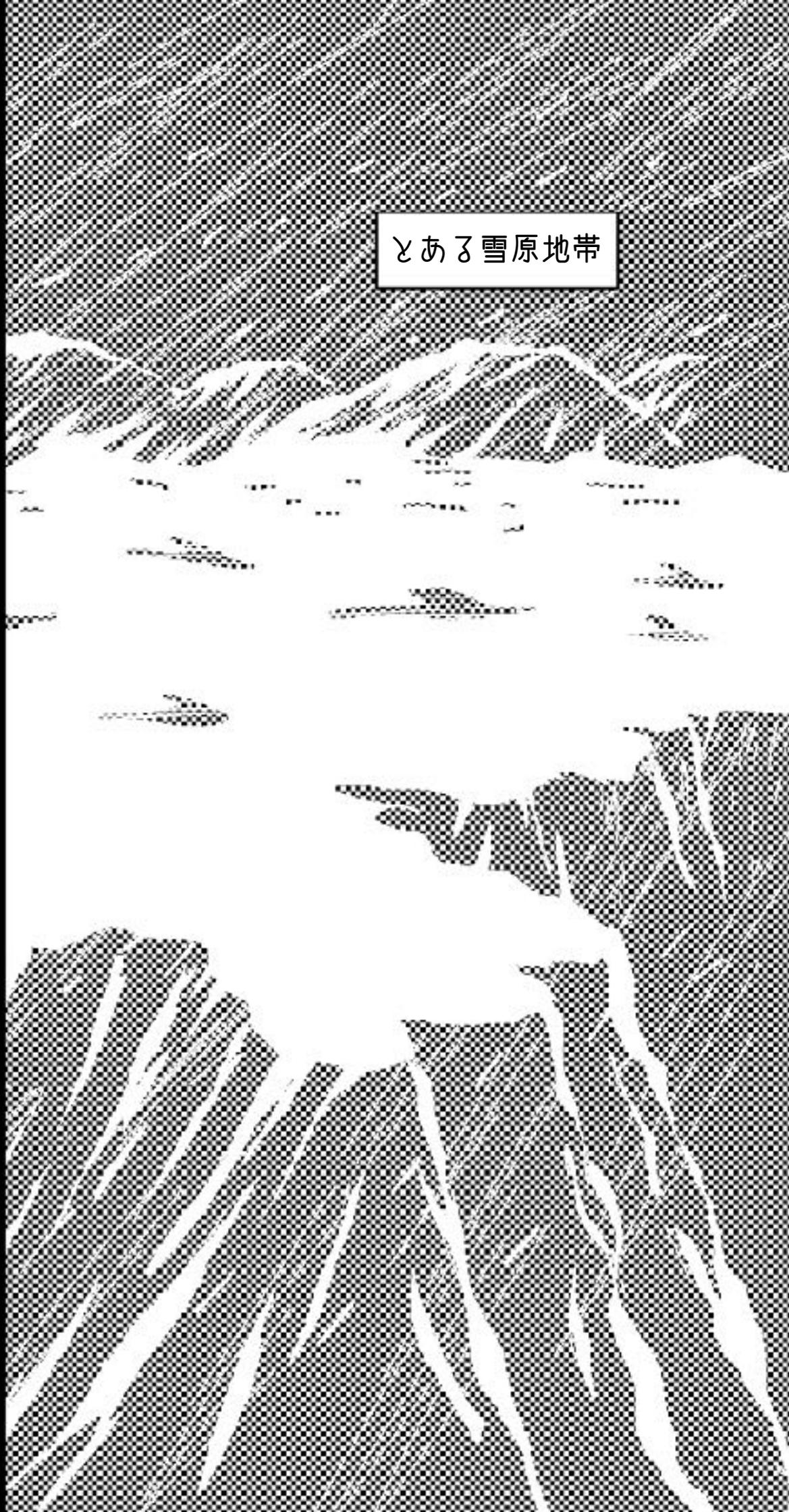


宝覺者

とある雪原地帯

宝を感じ取る力を持つ者＝宝覚者





特徴：「肌」で感じ取る



長所：「シンプル」



短所1：「見苦しい」

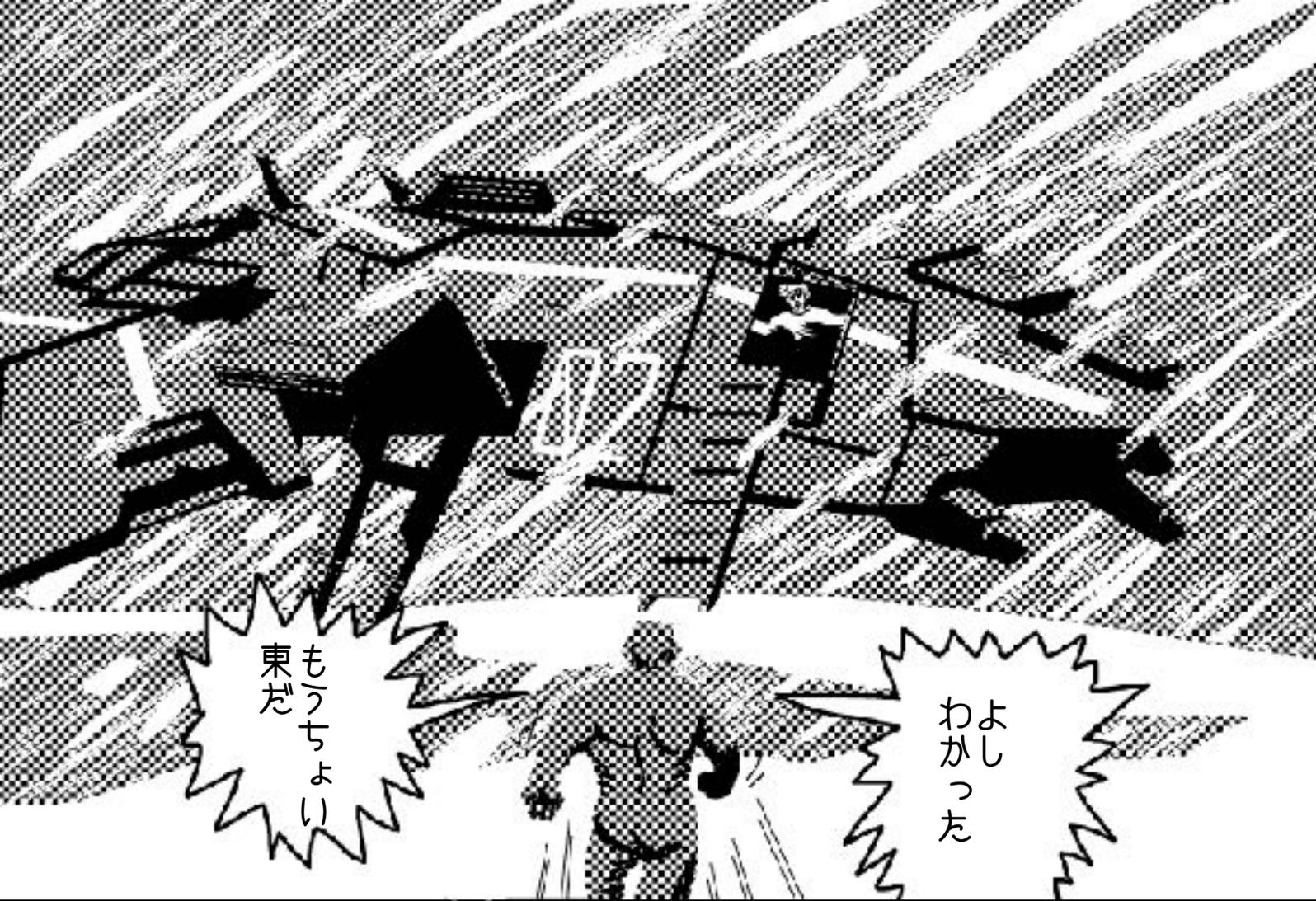
短所 2 : 「クソ寒い」



あいつ
寒い

もうちよい
東の方角かい

くそ
タマが凍り
そう
だっ

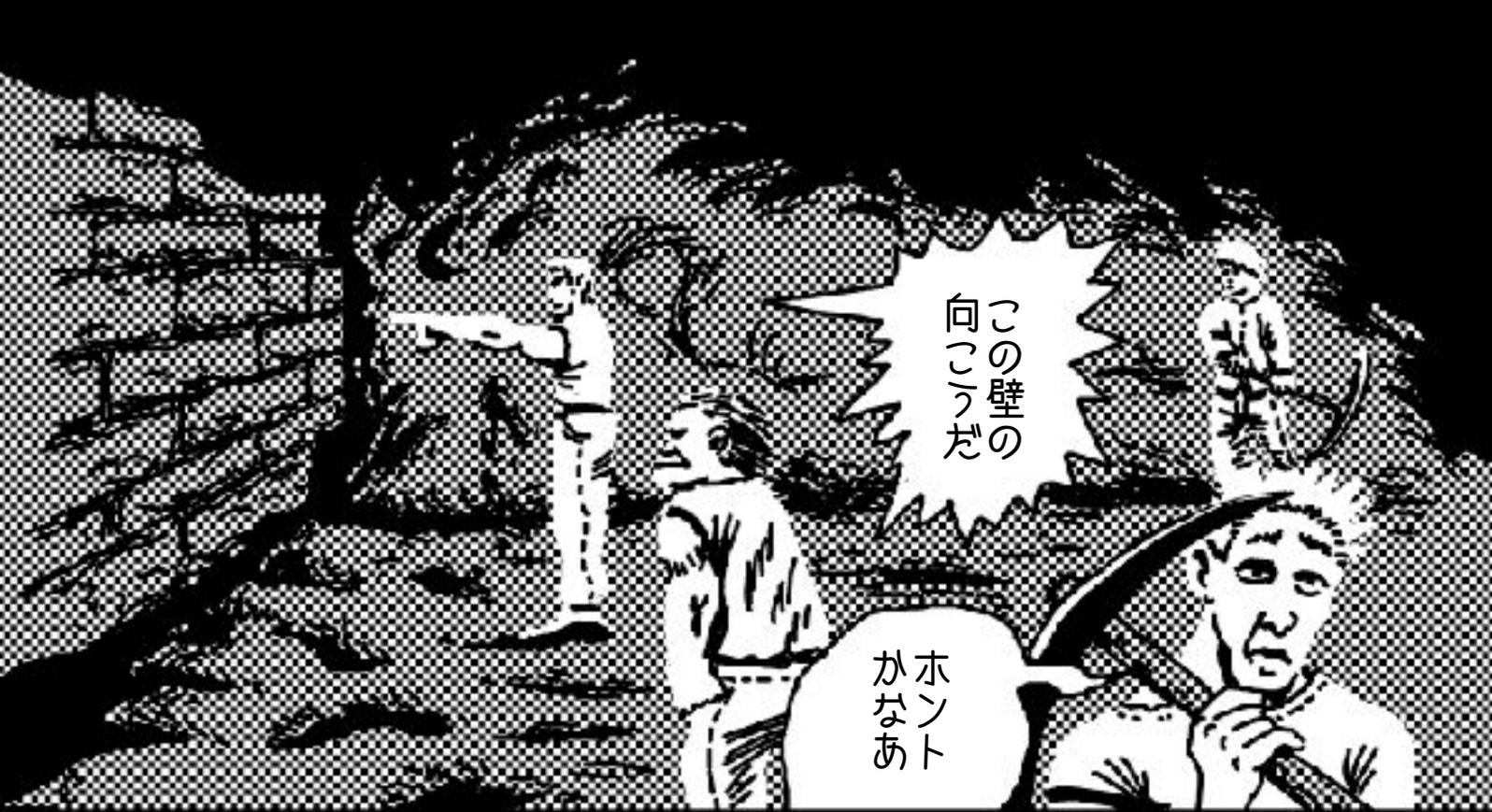


もうすよい
東だ

よし
わかった



発進



この壁の
向こうだ

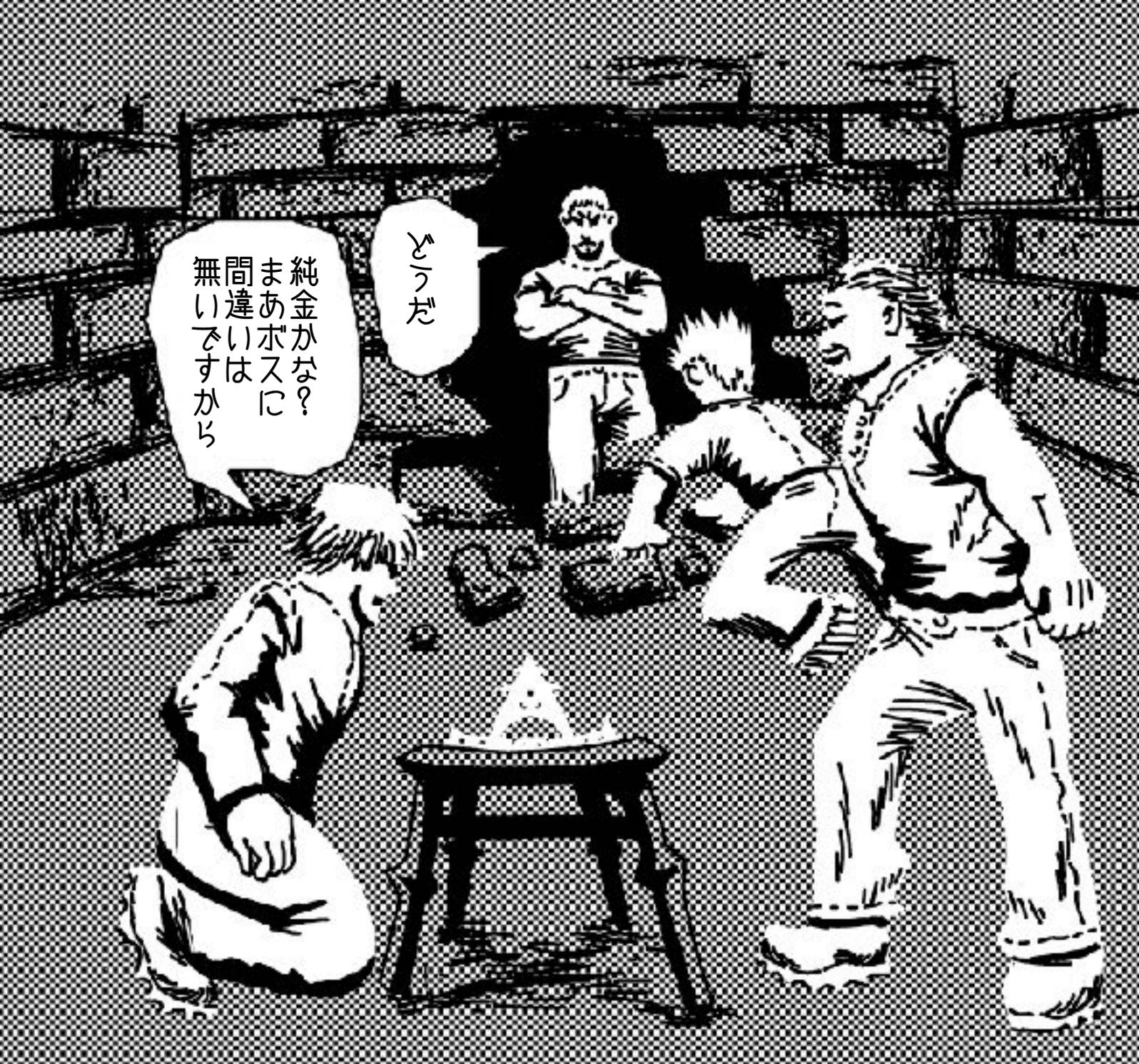
ホント
かなあ



おい

ついてきて
疑うとは
キサマ

どういう
根性だ



純金かな？
まあボスに
間違いは
無いですから

どうだ



なぜ俺を
疑った

わかるぞ
俺と
おまえを

同じ人間だと
思ったんだろう

ふざける



身の程を
わきまえろ
このやろっ

だが一度だけ
許してやる

とある海底

半信半疑
だった

なぜが
な

彼女の声は

心に
ひびいた

あなたか
あつたの？

残りの報酬
振り込んでね

あつた？



せめて顔を
見せないか
祝いたいんだ

まっしてくれ
まだ切るな

あつたぞ
金塊だ
君の
情報どおり





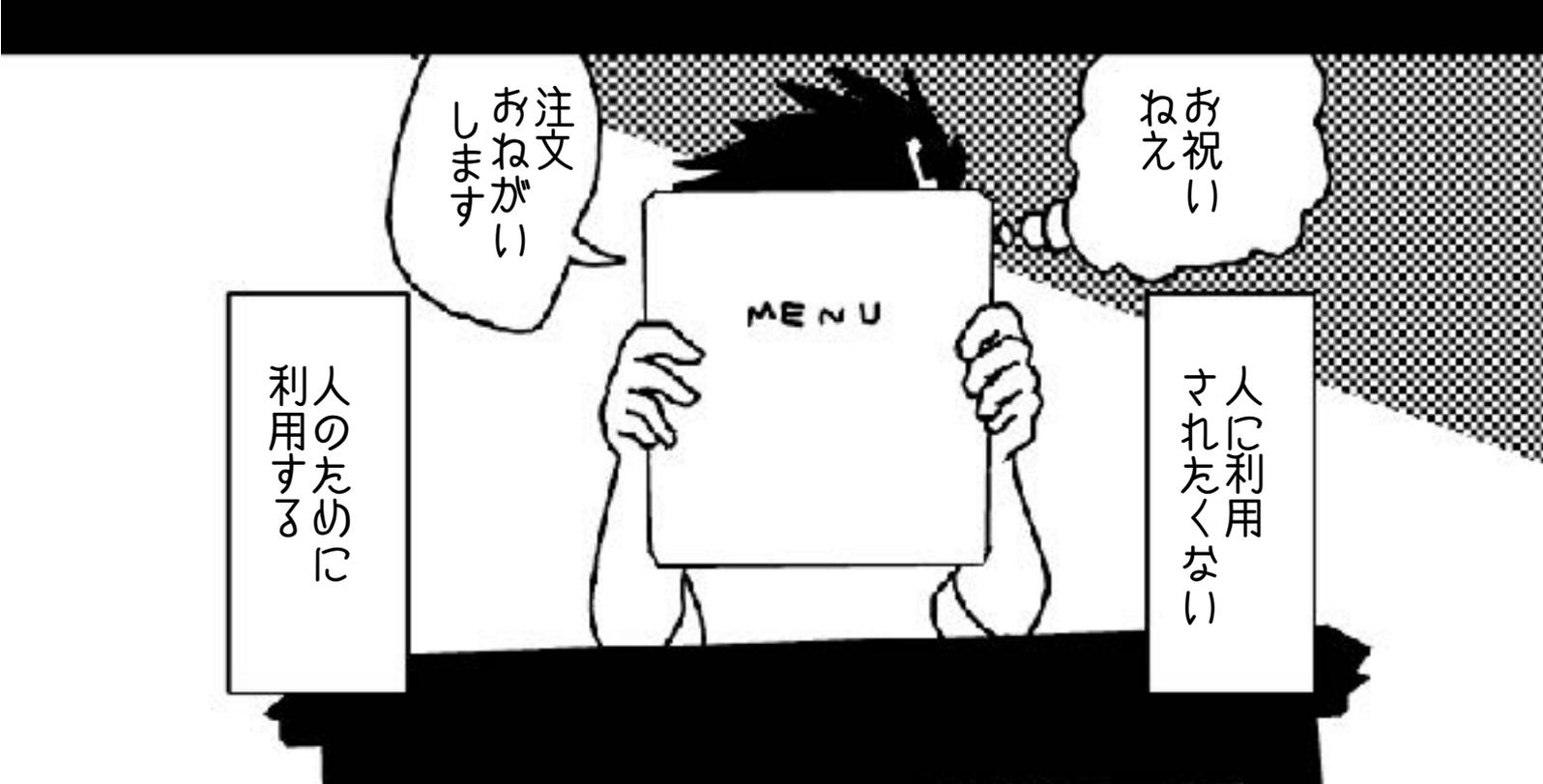
死んでも
顔は見
せない

何度言え
ばわか
るわけ

わかっ
たす
まな
い



地図を
見ると
宝の場
所が
光って
見える



注文
おねが
い
します

お祝
い
ねえ

人のた
めに
利用
する

人に利
用
され
たく
ない





使う力より
得るものを
小さくすれば
わたしから
消費され続け

いずれば
消えてくれる

のでは
ないかと



もちろん
理に欠けて
いるが

根拠のない
カンで
信じてる



他に
何が
できる
というのか

誰にも
邪魔は
させない

いつか
この力が

消える
日を願う

欲求に
まみれたら

わたしが
わたしで
なくなると

でも
誘惑は
強い

昔は
あらがって
いたけど
今は無理
だ

使わず
には
とても
抑えられ
ない

生きるため
妥協案を
見つけた



この力は

崇拜されるか
奴隷にされて
わたしが
きえる

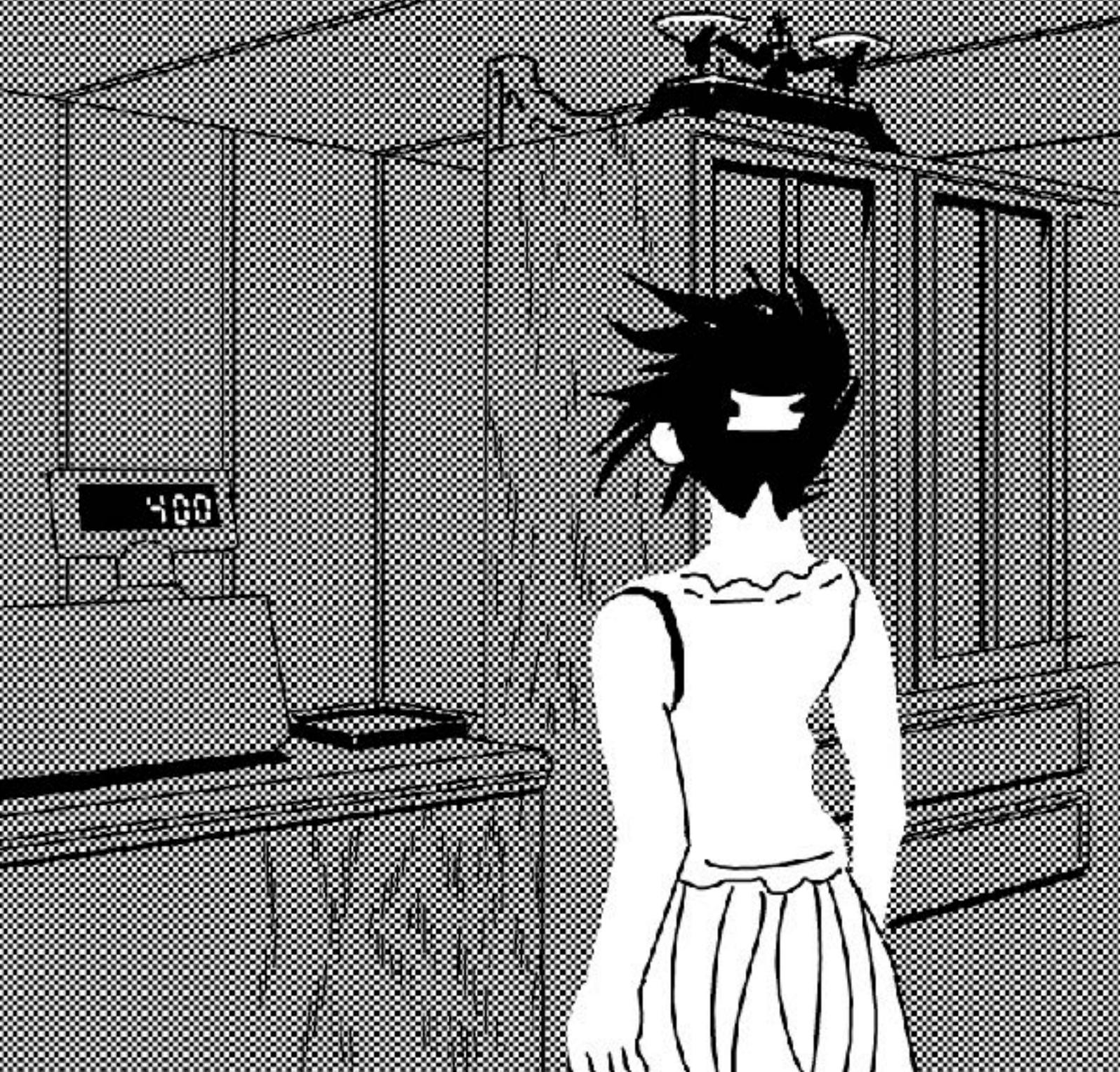
ばれたら
いけない

力が消えるまで

隠れて
一人旅

あそこの
天秤のようでは
ダメだ

アンフェアに
生活分だけ
報酬を
もらえばいい



とある辺境の地

うるせえ

だまれ

なぜ俺だけ
なんだ

いっつも

なん
なんだ

この力は



ぬふり



うるせえ
だまれっ



どうですか

買って
ください
安くていいので

これは
純金だ

酒だ

まず
寝酒を
買う

しかるのち

寝る





あつ
金を
落と
した

もら
って
おこ
う

疲
れた
寝
る
し
か
な
い



あつ
づ
い
た

お
い
ど
う
す
る



寝酒を
買うのを
忘れた

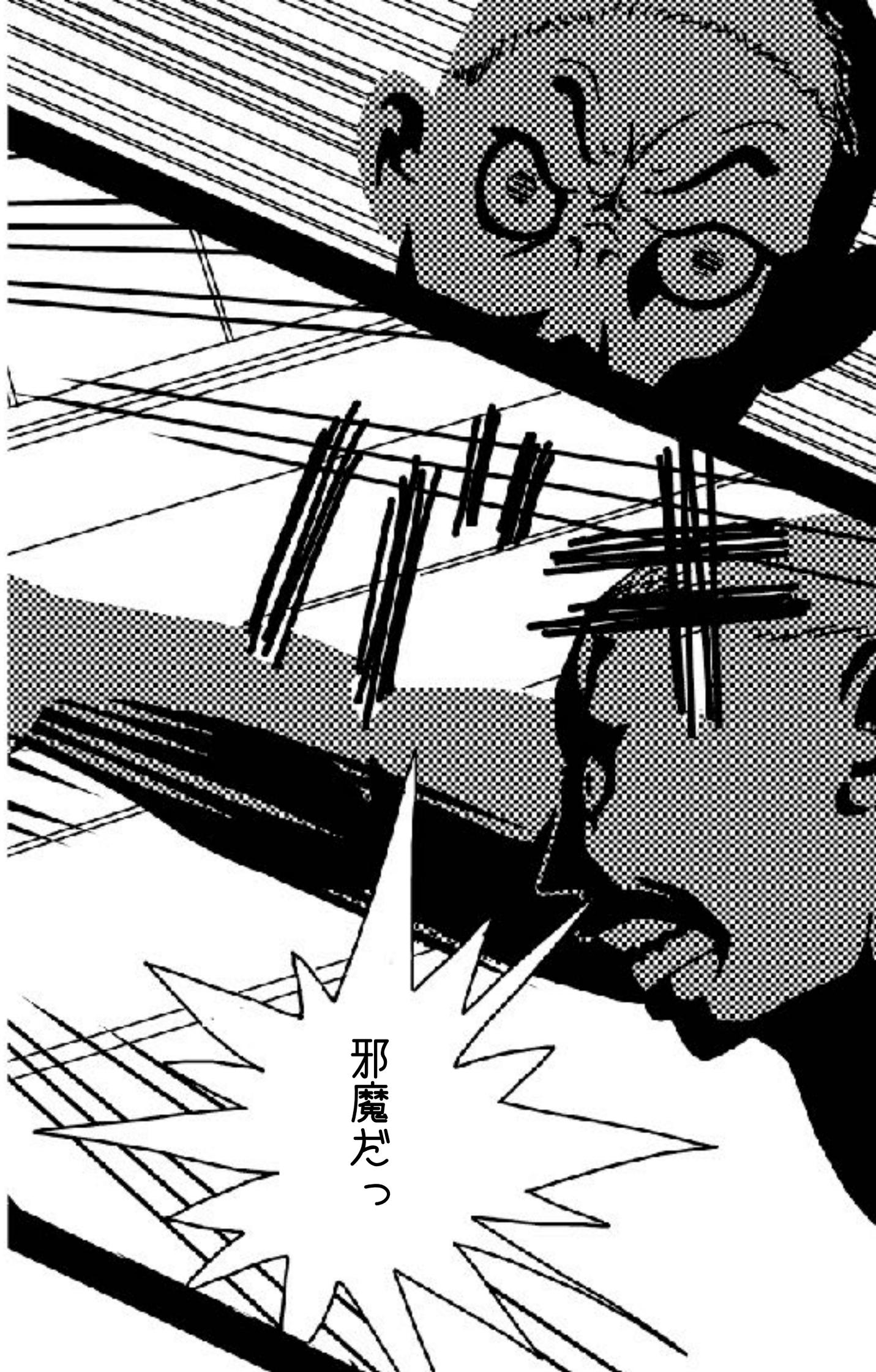
はやく
寝ないと
一日が
まわらない



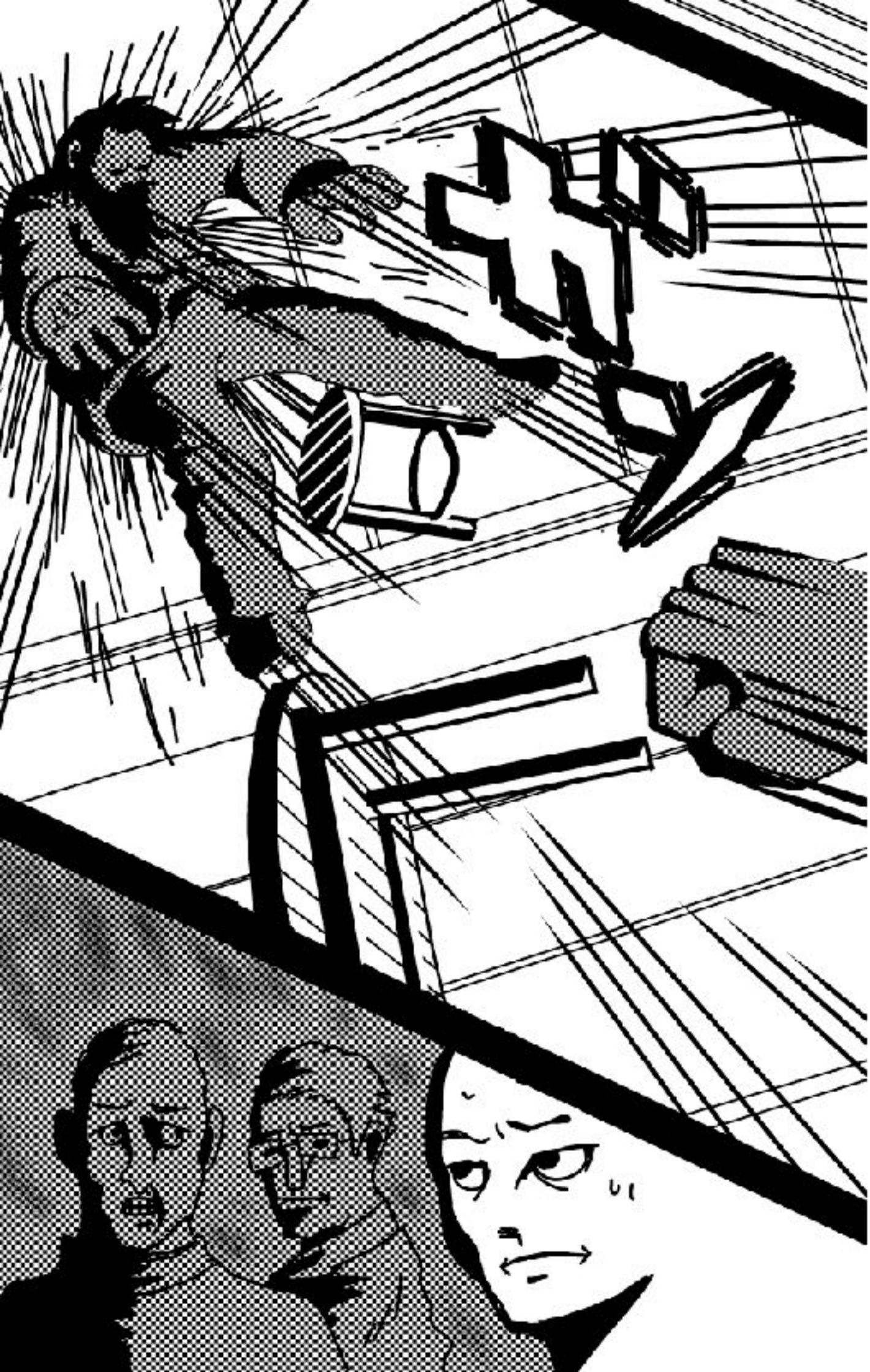
えっと

ちよっと
どいて

俺じゃない
こいつが
とっただ



邪魔だっ





最後に
頭を
コー
ティ
ング

声が遠のく
気がする



酒で
あの
声が
薄らぐ

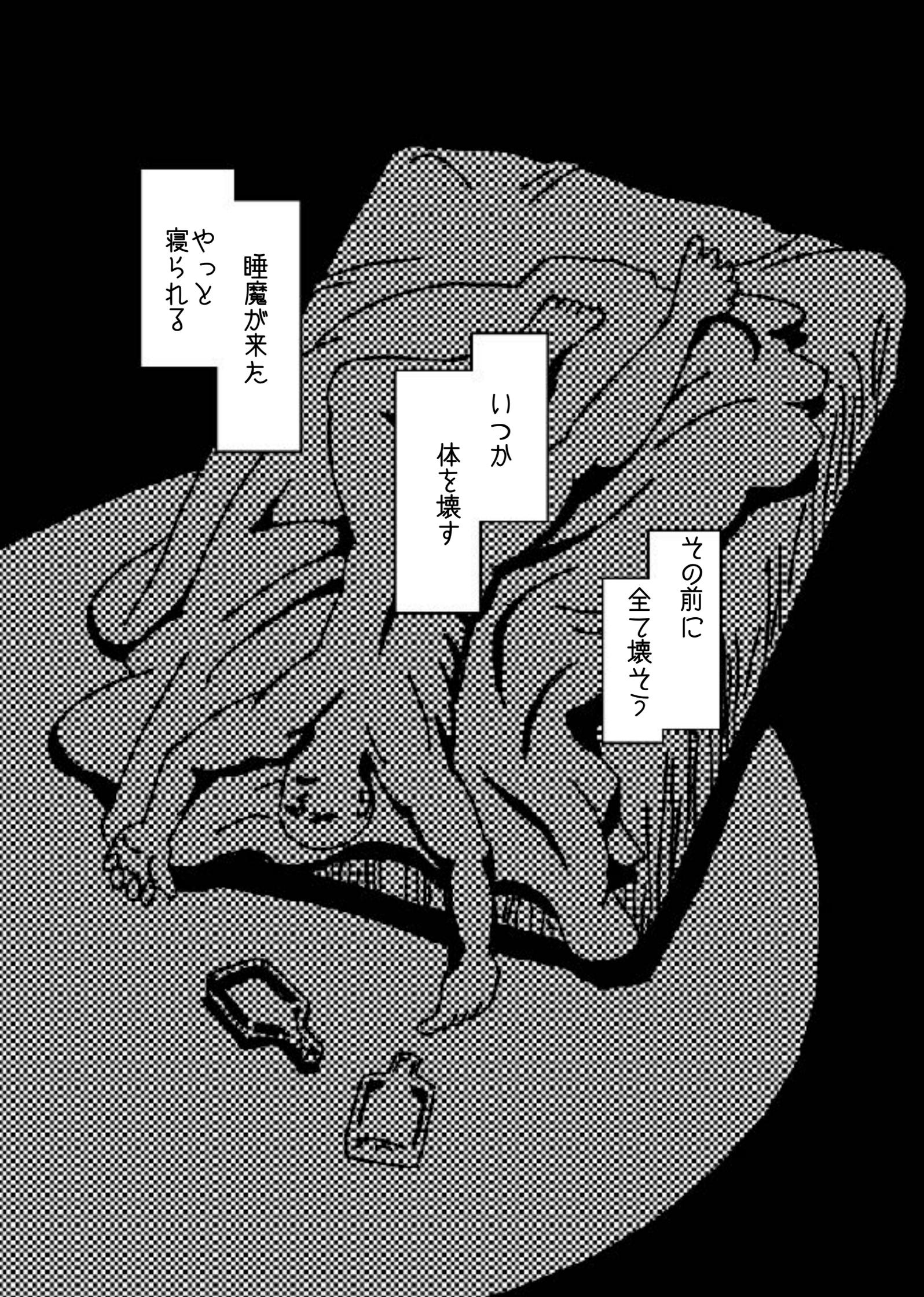
やっと
寝られる

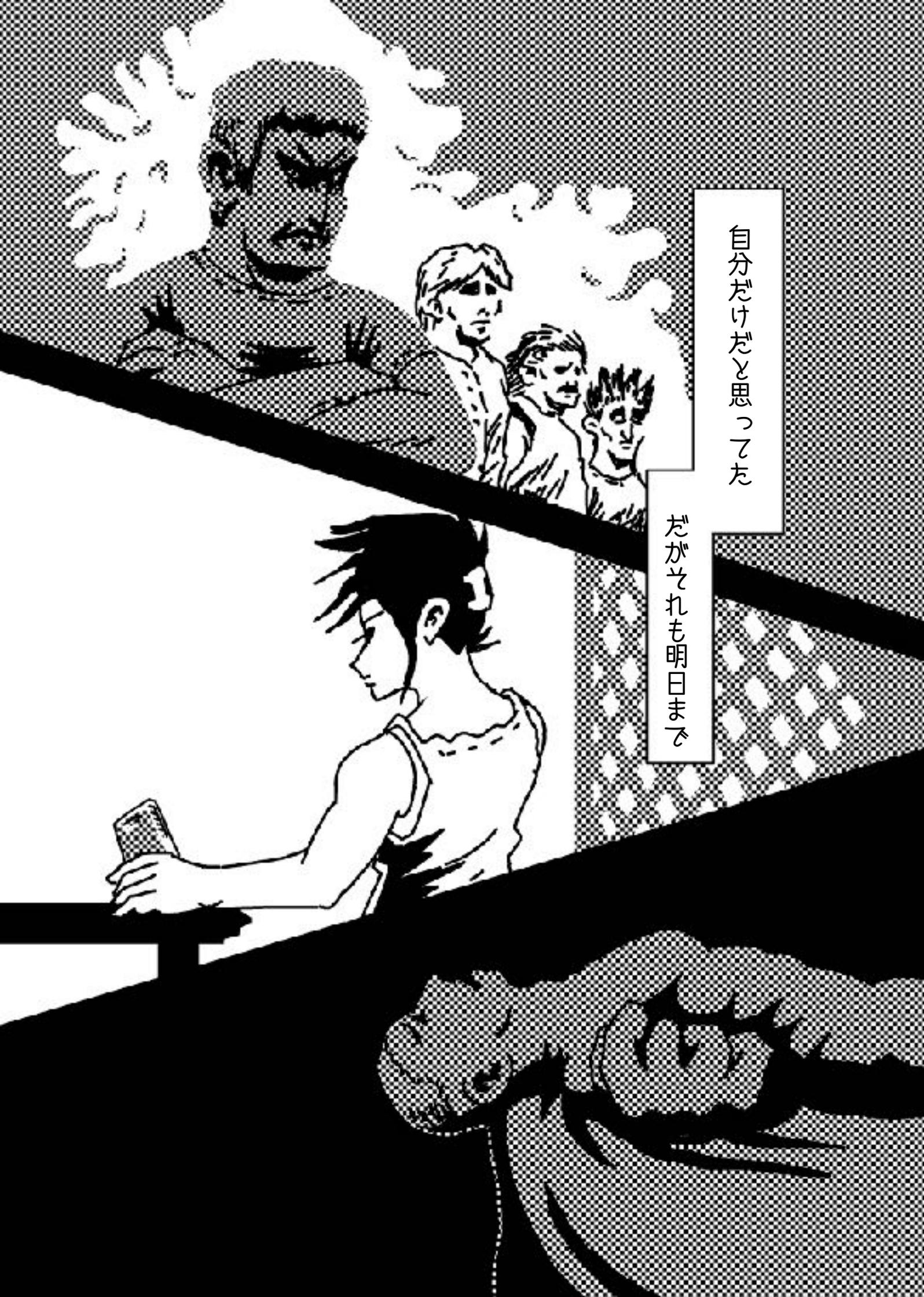
睡魔が来た

いつか
体を壊す

その前に
全て壊さう

その前に





自分だけだと思ってた

だがそれも明日まで



よし
ここだ



いくぞ



すみん
様子を見てみる



えっ
どういうこと
先客って

まさか



おい
先客がいるかも



誰だ
彼は



あれっ
誰だこれ

新入り
いな？





新入りか？

挨拶が遅れたか

一度は許してやろう

見ろ
純金だぞ



ぬふう





なんなの



だめだ
報酬は払えん

ちよつと
まって



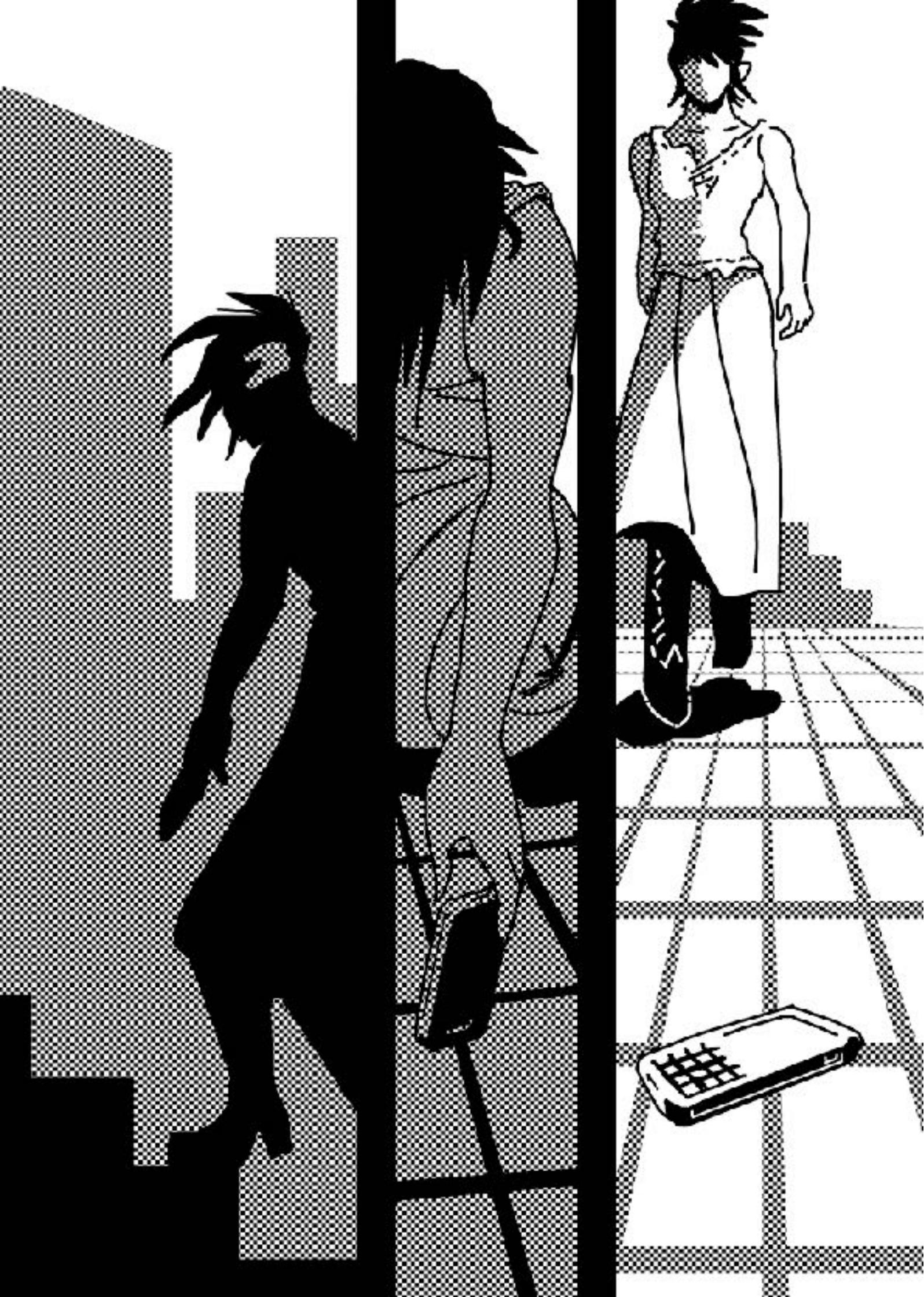
その瞬間
お互い
思った
瞬間

こいつは
道を
邪魔する
敵だと



だが同類だとは
まだ気づいていない







彼らの日々は続く

我々が追わなければ

彼らも我々を束縛しない